



三俣山荘の道直し

石川吉典





抱えていた課題

広域な範囲を維持しきれない（場所・人・お金）

北アルプス最奥の地・総延長 40km・たくさん頑張ったら自腹





現状に対するより本質的な解き方を考える

道直しの課題に道直しで取り組む果てしなさ

風景の価値を考える（道直しの立脚点）

登山者にとっての体験価値

商品やサービスの価値の源泉としての風景

社会的・文化的価値

自然と人を PR するのだ！

PR=Public Relations





複雑さへ向かうための入口と階段をつくる

「風景と道直し」

ボランティア受け入れ体制を整える（基礎的なこと）

言語化・視点の共有

TRAIL MAINTENANCE JOURNAL





歩くことのインパクト

山に与えるネガティブインパクトを取り除いていくな「歩かない」のが一番である。ハイカーにとっては元も子もない議論だけれど、そのくらい「歩く」ということは、自然に対するインパクトになっているという意味で。

イメージしてみてもほしい。誰かが草原の上を歩くとき、足下の葉や茎が押し潰される瞬間を。それが繰り返されることで地上の緑は薄くなり、土や根が露出しはじめるだろう。道のはじまりである。そうしてまた誰かが続けば地面はさらに削られもするし、あるいは根が伸び伸びできるふかふかだった土は固くなるし、また覆うものがなくなった表土には日光が当たりやすくなる。やがて乾燥し、根が枯れると、土も固まっていられない。

こうなれば、それまで複雑に生えていた草木を伝い、網目のように分散して山を潤し流れていた水が、踏み分け道に集中して流速を増していくのだ。脆くなった根と土はたちまち流失してしまう。つまり、踏み分け道が水を集めはじめたとき、それは草原のなかで明らかな傷口となる。点々とした踏み跡だけならば、いずれ自然の回復力で元に戻っていくものが、戻りにくくなる一線があるのだ。その傷口をトレースして歩くことでどうなっていくのかは、もはや言うまでもないだろう。

けれども私たちは、ただ一人の人間が歩くだけならば、風景を大きく変えてしまうほどのインパクトにはならないことを、広大な自然のなかに生息している熊がそこそこ歩き回っているようなことから知っている。

確かに「歩く」ことはインパクトになる。然し私たちの歩き方で、その影響の度合いは変えることができる。山にインパクトを与えてきたのが人間の集合ならば、そのインパクトをやわらげるのもまた人間の集合なのかも知れないから、これもまた多くの方と考えたいトレイルの話なのだ。

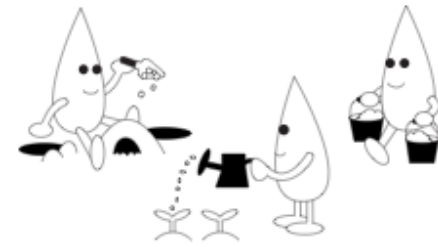
14



15

雨と水

Rain and Water



道直しの視点で雨と水は、植物の生育に必要なのは無論のこと、表土を侵食して流失させてしまうものとしても、また新たな土を運んでくるものとしても、鍵を握るものである。

雪

Snow



とても人力では動かすことのできないような大きな石は、雪が運んだものかも知れない。そのとてつもない重さとは力は登山道にもかかる。下手な丸太の階段などすぐに持っていかれてしまう。

霜

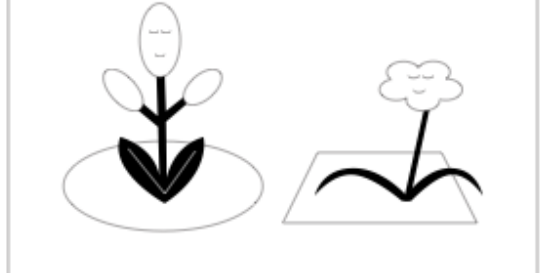
Frost



霜の役割は大きい。土を浮かせ、氷食作用によって道を脆弱化させてしまう反面、その上下によって土の中ははぐされ、植物の根が伸びやすい柔らかさや、水や酸素がいさわたる環境をも作っているのだ。

植生

Vegetation



植物というのはそれぞれの生育に適した場所に生きている。だから植生を見ることで、たとえば「コバイケイソウが生えていればそこに水の通り道がある」というようなことを知ることもできる。

STUDY 2



大掛かりに整備された登山道がつづいている山で見かけない大量の丸い石に違和感を感じるが川からわざわざ運び込まれたもの登山道といっても色々だ

34



工事完了から三年足らずでバラバラに崩壊している荒れた道は歩きにくくなり、風景はさらに毀損されてしまった自然と、その風景に根ざした道直しとはなんだろう？

35

風景とお金



ある試算によると、山に登らない人と比べて、山に登る人が山岳や登山道の保全に払っているお金、その差額は、年間プラス 50 円 / 人に満たないという。この金額が多いか、少ないか、どのように感じるかは皆さん次第と言いたところではあるものの、正直なところ少ないと思うのである。けれど一人ひとりの登山者には、「50 円しか負担していない」というような実感はないのではないだろうか？ というのも、多くの山へ登る方々は、それなりのお金をかけてギアを買い揃え、時に長距離移動の交通費を支払って登山口へアクセスし、山小屋での宿泊なり前後泊の代金まで支払うのだから、その総額はなかなかのものになる。そういった意味で、山にお金をかけていないという感覚にはならないだろうということなのだ。しかしそこでのお金というのは、たとえ山小屋で支払っているお金でさえサービスや商品の対価なのであり、フィールドの持続性を直接的に支えるものではない。ただ、その中でも山小屋などから人員やお金を削いで山岳や登山道を保全している分があって、これらを登山者からのお金だということにするならば、一人あたりの負担は年間 50 円未満ということになるのだ。

48

けれどもし、これがテーマパークだったら、フィールドに対する利用者負担が年間 50 円というわけにはいかないはずである。それどころか、ホテルへの宿泊やパーク内での食事とは別に、入場料としてハイシーズンには 1 万円弱になるバス代金をプレイフィールドに支払うだろう。しかも年間ではなく 1 日につき。無論、比較できない部分もあるから引き合いに出す程度にしたいが、要は、いくら山岳というフィールドが「本来そこにあった自然」だからと言っても、人々が立ち入った自然が放っておいても美しく安全に維持されるわけではないという事実は、もっと認識されてもよいだろうと思う。むしろ広大で、厳しい環境（それ自体は自然ではあるのだが）のなかにあるのだから、登山道や周辺の植物、付帯的な施設などを最低限保全するだけでも多くの力が必要とされているとも言えるし、つまりそれはお金もかかるということを意味している。だから 1 day パスポートに 8,000 円払うかどうかはさておいても、年間 50 円という数字には違和感を覚えざるを得ないのだ。現に多くの場所では、発展性など望むべくもなく、現状維持としての保全さえもついでにないのだから。もっとも、近年では登山者が任意で入山協力を負担する場合もあるけれど、それにしただけで数百円という設定であり、私たちが日常的に数百円を支払っているものと、フィールドから得ているものを並べて考えると、これを妥当だと言ってしまうとよいのだろうか？

けれどもなにもお金の話に終始したいわけではない。問いたいののは「風景の価値」についてなのだ。私たちがやりとりしている山にまつわるお金。それは登山者であれ、山小屋であれ、山岳ガイドであれ、あるいは都市のギアショップであれ、フィールド（山岳自体）とそこでの体験に多くの人が価値を見出し、またそれを求めるが故に成り立っているはずである。けれども私たちは、ウェアやザック、宿泊や山荘でのビールにはお金を払えど、それら様々な価値の土台になっているはずの山岳自体へ、感受しているものに相応しい態度を示しているのか？

山との関係で生まれている価値の、その源泉はなんだろう？ きっと私たちは、このことについてもう少し考えてみる必要があるし、それが、山岳自体や、登山を通して感じ得ることがある価値を時に高め、また未来へつなぐきっかけにもなるのではないだろうか？

49



道直しボランティアプログラム（8 名前後／回）

入山前：オンライン説明

一日目：山荘集合（各自三俣山荘に）

「風景と道直し」を使ったオリエンテーション ♪

二日目：自然観察 👁（荒廃箇所や過去の作業箇所を歩き視点共有）

実作業 🏔

振り返り会 🗣（言語化し意識化・定着化、他者と共有）

三日目：実作業 🏔

振り返り会 🗣（言語化し意識化・定着化、他者と共有）

四日目：解散（下山）

※2024 年は 11 回実施。体験に加え振り返り会が重要！





18:02



MITSUMATASANSO
投稿



mitsumatasanso
三俣山荘



ストックの影響により
枯れてしまった高山植物

インサイトを見る

投稿を宣伝

2,572 26 17

いいね! : yoshinori8654、他



18:03



MITSUMATASANSO
投稿



mitsumatasanso



インサイトを見る

投稿を宣伝

1,904 5 5

いいね! : yoshinori8654、他





ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！

ともあれ楽しい！！









































然るべき道直しへ
ボランティアでの作業レベル
美しく丁寧に
もっと美しい道直しはないか？
道から山へ
自然と親しい仲間たち





















着実にやる、それを種として発展させる

ボランティア参加者と作業量が増える (0→12→37→75 人)

できることが広がっていく (経験・質)

より自然に近くなっていくのが面白い (深まり)

具体的に次の関わりへ発展させる (展開)

→アウトドアブランドやショップ (2024～)

→トレッキングポールに関する取り組み (2025～)

→北アルプストレイルプログラムにおける人材育成 (2025～)





三俣山荘の道直しは

現状に対するより本質的な解き方を考える

風景の価値を考える（道直しの立脚点）

自然と人をパブリックリレーションするのだ

複雑さへ向かうための入口と階段をつくる

ともあれ楽しい！！

然るべき道直しへ

着実にやる、それを種として発展させる





サイトスペシフィックなマネジメント

その場所、そこにいる人、固有の背景

自然と人の関係を考える

ともあれ楽しい！

人にとっての自然の価値をつなげ長期的に最大化する





一緒にやりましょう！

三俣山荘と道直しチーム一同

